

西多摩地区（奥多摩町）公立小・中学校教員公募

巨樹と清流の町奥多摩で、町の宝を共育しよう

◎町内には、現在、小学校が2校、中学校が1校あります。過疎化・少子化の影響で、児童・生徒数が減少しているため、これまで2校あった中学校は、平成27年4月に両校を閉校し、統合新設校「奥多摩中学校」を開校しました。児童・生徒数は少ないのですが、みんなとても素直な子供たちです。

◎この子供たちを、地域と一体となり、「共育」（保護者、学校及び地域の方々が共に育てる）しませんか？そして、自分たちも育ててもらうのです。

◎水と緑が豊かな自然と、郷土芸能の宝庫そして人情味豊かな「おくたま」で！

1 趣旨

奥多摩町教育委員会は、本町の教育施策に関心をもつとともに、その具現化に意欲のある指導力豊かな教員を募集します。

2 実施公募

西多摩地区公立小・中学校教員公募

3 応募の要件

令和2年5月8日付2教人職第241号「令和2年度（令和3年4月1日異動）公立小中学校教員公募の実施について（通知）」の「3応募の要件」による。

4 奥多摩町の教育について

町教育委員会の教育目標は、「住みたい 住み続けたい みんなが支える癒しのまち 奥多摩」をまちづくりのキャッチフレーズとする町の第5期長期総合計画を指針とし、次代の町を担っていく人材の育成を最重点課題に、知・徳・体の調和のとれた人間を育てるため、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育成する教育を推進し、子供たちの「生きる力」を育む。

そのために、学校・家庭・地域が連携し、だれもが生涯を通じて、学び、支え合うことのできる地域社会の実現と、まちづくりの基本方針の1つである「町の中と外から関心をもたれる教育のまちづくり」を推進していく、と定めています。

町の人口は過疎化（少子・高齢化）により、児童・生徒数は年々減少傾向にありましたが、15項目に及ぶ子ども子育て支援推進事業（小・中学校給食費助の全額助成、中学生制服等購入費助成事業、高校生等通学支援事業など）の推進、さらに町営若者住宅の建設、若者定住応援住宅、いなか暮らし支援住宅、分譲地の整備事業等により町外からの転入者が増え、平成28年度に児童・生徒数は下げ止まり、現在は一定の水準で維持されています。

地域の活力と地域住民参加による地域に根ざした学校運営を通して、地域全体で子供たちを支えるため、学校・家庭・地域が連携し、地域住民の協力と参加による「開かれた学校づくり」を推進しています。平成29年度に中学校、平成30年度からは小学校にコミュニティ・スクールを導入し、小・中学校共通の学校運営協議会を設置することで今まで以上に小・中学校が連携を強め、義務教育9年間を見通した一貫した教育を実践しています。

新学習指導要領の小学校5・6年生の英語教育の教科化に伴い、外国語教育の推進を町の教育施策の柱と位置付け、小学校では2名のJET-ALT、中学校では民間企業と労働派遣委託を締結しALTの常駐化を図っている。さらに、小学校では平成30年度から放課後英語教室の開設、中学校2年生では令和元年度から東京グローバルゲートウェイの体験学習を実施しており

外国語教育の推進を図っています。

主体的・対話的で深い学びを実現するための学習ツールとして小・中学校ともに1人1台のタブレット端末を配備し、授業の活用に加え家庭への持ち帰りを推奨し家庭学習の充実に努め、小学校から9年間見据えたICT教育の推進を図っています。

5 こんな先生が欲しいのです。

(1)奥多摩の子供たちは？

明るく素直で、何事にもまじめに取り組む児童・生徒が多く、異年齢集団の活動も活発です。

しかし、幼少期から小学校卒業まで同じクラスで生活するなど人とのかかわりが限られているため、友人関係が固定化したり、切磋琢磨する機会が少なかったりして向上心に欠ける傾向もあります。このような子供たちの心と体を強く育ててもらえる意欲ある先生を募集します。(9月1日現在の児童・生徒数：小学校148名(古里小：90名、氷川小：58名)、中学校68名)

(2)地域と共に子供たちを育てましょう

過疎化が進み、児童・生徒数は減少していますが、地域の方々は学校に対して非常に協力的で、登下校時の地域での見守り、学校行事への参観率は高く、地域の学校としての期待も大きくなっています。地域の中に溶け込み、地域の行事にも参加し、交流し、町の宝である次代を担う子供たちを地域と共に育てていこうとする、意欲のある先生を待っています。

(3)何ごとにも貪欲で、チャレンジ精神旺盛な先生が必要です。

教育基本法や新学習指導要領といった法令等を遵守することはもちろんですが、それだけでは「奥多摩っ子」を育てることはできません。この東京にあって、稀有な水と緑が豊かな自然に恵まれた奥多摩で、周囲と協調しながらも、既存の考え方にとらわれず、伸び伸びとした気持ちで、子供たちのために何ができるのかを考え、実践できる柔軟な頭と健康な心と身体をもった先生が必要です。

6 募集の予定人員（教職員の異動の状況により、募集人数等が変更する場合があります。）

(1)小学校

- ・全科 1名
- ・養護 2名

※主任教諭又は教諭

(2)中学校

- ・募集なし

7 応募の手続き

(1)応募教員

ア 提出書類：①公立小・中学校教員公募応募用紙（様式2）

②西多摩地区公立小・中学校における教育の展開（様式B）

イ 提出先：①の（様式2）の裏面に②の（様式B）を両面印刷し、所属校の校長に提出

ウ 提出期限：応募者の所属する教育委員会の定める期日

8 選考の方法

(1)選考の方法等

- ・書類審査の上、個別面接を実施します。

【面接日】令和2年11月5日（木）（詳細は通知します。）

会場：東京都青梅市河辺町6-4-1

東京都青梅合同庁舎 3階 第1会議室（第2会議室・控室）

奥多摩町とは・・・（ホームページは、こちらから <http://www.town.okutama.tokyo.jp/>)

奥多摩町は、東京都の最西端に位置し、全域が秩父多摩甲斐国立公園内という自然環境下にあり、225.53km²の行政面積は東京都の10分の1を占め、その94%は森林で、古くは江戸時代初期の天然林伐出しに始まり、かつての主幹産業は林業でした。

清らかな水が豊富な当町は、西から東へ多摩川が貫流し、小河内地域には都民の水源でもある奥多摩湖が美しい景観を呈しており、都最高峰の雲取山（標高2,017m）は気高く、水と緑が豊かな自然の町です。また、日本水源の森百選に選ばれた当町には、幹周りが3.0m以上の巨樹が千本余確認され、全国で一番巨樹の多い町でもあります。

奥多摩町は昭和30年に古里村・氷川町・小河内村の1町2村が合併して誕生しました。

その当時15,400人余であった人口は、社会構造及び産業構造の変化、林業の衰退が、経済の停滞と人口の減少を招き、現在の町の人口は、近年の少子化と相まって、5,019人（9月1日現在）である一方、高齢化率が49.9%と少子高齢化が一層進んでいます。

このような中、町では広大な森林と、数多くの渓谷に恵まれた地形を生かし、都で初となる森林セラピー基地の認定を受けました。多くの現代人が抱えるストレスも、森に足を踏み入れ、「森林浴」をすることで癒されます。この効果を科学的に解明し、こころと身体の健康に活かそうという試みが「森林セラピー」です。

また、若者定住と子育て応援のため、低価格での分譲地販売や子供の医療費無料化、保育料の全額助成、学校給食費全額助成、通学費全額補助、中学生制服等購入費全額補助、入園・入学・進学支援金等、15項目の子ども子育て支援推進事業の助成を行い、未来の奥多摩への架け橋をつなぐ独自の施策を数多く展開しています。

教員公募担当……奥多摩町教育委員会 教育課 学務係 電話：0428-83-2246

○各学校の特色ある教育活動の紹介

☆古里(こり)小学校 (ホームページは、<http://academic2.plala.or.jp/kori/>)

古里小学校では、奥多摩町の自然や地域人材を教育資源とし、体験を通して学習することを大切にしています。奥多摩ならではの登山遠足や、ワサビ栽培なども行っています。

昨年度は、「心ときめく」学校生活や授業づくりに取り組み、町の研究指定校として発表しました。今年度は、改めて、子供たちに一番身に付けさせたい力は何かについて協議し、「自分の考えをもち、表現できる児童の育成」を研究主題として研究を進めています。

・教育目標 「いのちを大切に 共に輝き 生きていこう」

- かしこく……学ぶ楽しさを知り、学びを生活に生かす
- なかよく……人と心を通わせ、人のために自分の力を生かす
- たくましく……健康で丈夫な体と、健やかで豊かな心をもつ

1 「かしこく」 学ぶ楽しさを知り、学びを生活に生かせる子に

- ・ 校内研究を中心に、自分の考えをもち、表現できる児童の育成
- ・ 全教科で課題解決・探究学習を進め、主体的な気づきと学びの力の向上
- ・ 習熟度別指導、特別支援教育の推進による個に応じた指導の充実
- ・ 読書、「書く」「話し合う」活動の重視、詩の暗唱・群読、落語教室等の言語活動の推進
- ・ タブレット型PCを活用した情報教育の推進
- ・ JETプログラム制度によるフルタイム勤務のALTを活用した外国語活動等の充実
- ・ 放課後を利用し全学年を対象とした放課後英語教室の開催
- ・ 多摩川学習（多摩川水源、ダム、水道施設、河口などの見学・体験学習）

2 「なかよく」 人と心を通わせ、人のために自分の力を生かせる子に

- ・ 特性に応じた学びの場の整備、自尊感情や自己肯定感を高める指導・支援の推進
- ・ 1年生から6年生までの縦割り班を基にした行事の充実
- ・ 特別支援学級との交流及び共同学習の充実
- ・ 高齢者施設訪問、保育園訪問による福祉学習の充実
- ・ 町内小学校間の共同学習、4、5、6年生各々の合同宿泊移動教室の実施
- ・ 武蔵野市立井之頭小学校、オーストラリア・バイロンベイ高校生徒の交流会の実施

3 「たくましく」 健康で丈夫な体と、健やかで豊かな心をもつ子に

- ・ 体力向上を目指した縄跳び旬間、持久走旬間、登山遠足の実施
- ・ 家庭との連携による保健指導、ノーマディア旬間の実施
- ・ 地域を生かした体験学習（シイタケ・ワサビ・治助芋の栽培、林業体験、山のふるさと村）
- ・ 地域や保護者の方々と連携した活動の実施（民舞、陶芸、生け花、絵手紙、百人一首、押し花、茶道、篠笛等）

☆氷川(ひかわ)小学校 (ホームページは、<http://academic2.plala.or.jp/ohikawa/>)

氷川小学校は、氷川地区、日原地区、小河内地区を含め、奥多摩町の約8割の面積を占める学区域となる。山林、川、湖、ダム、たくさんの動植物があり、自然豊かな教育環境の中で学んでいる。

・教育目標

自らの能力を最大限発揮し、考え、行動し、自ら道を切り開いていくことのできる児童の育成を図るため、以下の教育目標を定める。

- 自ら進んで学ぶ子 「実践力」「言語活用能力」「主体的に取り組む力」
- 仲良くやさしい子 「自他を大切にできる心」「共感力」「自尊感情・自己肯定感」「協働力」
- 健康で明るい子 「自主・自立の態度」「豊かなスポーツライフを実現する力」「豊かな心」

(1)主体的な問題解決・探求の学習で考える力を育てる

- ・全教科で課題解決学習（自力解決、学び合い、振り返り）充実。読書環境、書くことの重視。
- ・地域の自然や産業、文化の教材化や宿泊学習等、様々な探究型の体験活動を展開。
（全校獅子舞、山葵・椎茸・山女等栽培飼育、水源登山、自然教室、沢登り、林業体験等）
- ・児童の主体性を大切にした学習展開、児童会組織、学校行事運営。
- ・次期学習指導要領を踏まえ、英語の教科化に向けJET-ALT制度を活用しALTを常勤。
- ・放課後を利用して全学年を対象に放課後英語教室を開催。
- ・プログラミング教育推進校として、平成30年度より2年間、実践教育を実施。

(2)一人一人に応じた指導の工夫で基礎的な力を身に着けさせる

- ・少人数を生かした習熟度別指導、情報機器の活用等で一人一人の特性に応じた指導を工夫。
- ・全職員による見取り、校内専門職や支援員との連携等、個に応じた指導・支援の組織的推進。

(3)共に育て共に育つ関係の中で人間力を育む

- ・縦割り班活動、古里小との共同学習、中学生学習支援、他校交流等。多様な集団学習の展開。
- ・出会いとふれあいの場を生む地域の方や保護者の授業参加、ゲスト講師授業等の推進。
- ・児童の健全育成を図るための、家庭と学校、諸機関との密接な連絡・相談・協働。
- ・武蔵野市立井之頭小学校、オーストラリア・バイロンベイ高校生徒の交流会。
- ・小学校4年生の都内宿泊、5年生の大島移動教室、6年生の日光移動教室は、古里小学校と合同実施。

☆**奥多摩中学校** (ホームページは、<http://www.okutama.jhs.jp/jo39i2zt5-12/>)

学校は、そこに関わる人間（通う生徒、あずける保護者、働く教職員、見守る（地域や行政）すべてに幸せを育むものでなくてはならないと考え、学校運営を行っている。小学校を含めたコミュニティースクールとして地域とともに学校づくりを行っています。

・教育目標

郷土を大切にし、21世紀をたくましく生きる生徒の育成を目指して
〈校訓〉 「協働」 共に学び、考え、実行する

◇こんな学校に **全員支援教育**

生徒が自信をもち、将来の夢に向かいチャレンジする学校

全員支援教育とは全員を理解する教育です。その理解の上に、自己肯定感と自尊感情を高め、自分を大切にし、人を思いやる心をもつ。そして自信をもち将来の夢に向かいチャレンジする生徒の育成を図る学校。学ぶ力を育て、その上でこの学校に通わせてよかった。この学校に通わせたいと強く感じてもらえる学校とします。そのために次の3つを本校の特色ある教育活動としてアピールし、取り組みます。

(1)「協働」(協働的に課題を解決する体験)

少人数のグループで協力し合いながら共有する目標の達成を目指す学習や作業のことで、誰もがリーダーシップを発揮できる状況を作る。教員は支援するファシリテーターの役割を果たし、生徒の自律的かつ創造的な学びをサポートする。これをすべての教育活動に取り入れる。

この「協働的な学び」を、教科だけでなく、道徳や特別活動、総合的な学習の時間などでも広く実践し、さらに深めていくために、「人間関係形成力」「基礎的な学力」「思考力」「表現力」の四つの力を育てていく。

(2)特別支援教育から全員支援教育へ

学校生活で「何か困っていること」があるすべての生徒を対象とした全員支援教育を行う。「一人一人の生徒を大切にする」という考えに基づき、支援を要する生徒の教育的ニーズに応じて適切な指導と必要な支援を行う。2週間に一度、管理職、スクールカウンセラー、各学年、特別支援教育コーディネーターによる校内委員会を開き、対象生徒一人一人の対応策を検討し、関係諸機関とも連携しながら学校全体で取り組む。

(3)21世紀を生き抜く力を育てる (ICT機器活用と外国語教育の推進)

ICT機器については、生徒に1人1台持たせるタブレット端末(iPad)を中心に活用する。活用の方法として、マルチメディアによる表現・製作、複数の意見や考えを議論して課題を解決する協働的な学び、発表や話し合い活動の活発化、シミュレーションや思考のツールを使った学習、教材や生徒の意見などの掲示、Webなどによる調査探求、タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習など、研究実践していく。また外国語教育については、TGGや国際交流事業を含め、外国語の活用機会を増やし、子供たちがグローバル化社会を生き抜く力としての外国語教育の推進をしていく。